地域・学校防災教育セミナー 実施状況報告

日　時　平成２７年１１月４日（水）　11:00～16:10
場　所　千葉県教育会館
参加者　１６４名

１．実施概要

地震防災アドバイザーの川端信正先生に地域と学校の連携による防災教育について、御講演いただきました。

また、命の大切さを考える防災教育公開事業（県教育庁事業）を実施した小中学校、高校及び特別支援学校の８校による事例報告の発表がありました。

発表後は、川端先生による講評のほか、来場者との意見交換が行われました。

プログラム

No.	演　題　等	講師及び発表者
1	講演 「地域と学校の連携による防災教育」	地震・防災アドバイザー 川端　信正　氏
2	防災教育モデル事業事例報告	
	（1）自らの生命や安全を守ることができる子どもの育成 ～防災教育及び避難所設営への関わり方～	我孫子市立布佐南小学校 教頭　三好　一彦　氏
	（2）自ら社会とかかわり、自他の命を大切にする児童の育成 ～仲間とともに学びあう活動を通して～	佐倉市立根郷小学校 教諭　茅根　進　氏 教諭　小石　聡史氏
	（3）自らの命を守る防災教育 ～的確に判断し、主体的に行動できる児童の育成をめざして～	長生村立一松小学校 教諭　石野　敦子　氏
	（4）自分とともに他の人を大切にし、命を守る防災教育 ―自ら判断し、危険を回避し対応できる力・共助できる豊かな心の育成	市川市立第七中学校 教諭　藤井　義康　氏
	（5）津波からの避難 ―命の大切さを考え、自助・共助の意識のもとに的確に行動できる生徒の育成－	鴨川市立安房東中学校 教諭　笹子　竜侍　氏
	（6）防災ボランティア ～地域と連携した防災教育への取り組み	県立清水高等学校 教頭　荒木　邦弘　氏
	（7）地震と津波・地域ぐるみで防災を	県立長狭高等学校 教諭　島崎　一広　氏
	（8）帰宅困難・引き渡し ―自助、共助の心を育てる取り組み―	県立千葉聾学校 教諭　窪田　修平　氏
3	講演者による事例報告の講評及び質疑応答	講師及び発表者

講演『地域と学校の連携による防災教育』

地震・防災アドバイザー　川端信正　氏

なぜ、いま防災教育が重要なのか、最初にお話したい。

最近、水害、火山活動、あらゆる災害が活発になっている。日本列島は６０年余り静穏に経過してきた。戦時中に大きな地震がいくつかあり、これらの災害が日本の終戦を早めたとも言われている。福井地震を最後に、長い静穏期に入り、阪神淡路大震災をきっかけに活動期に入った。東日本大震災から更に活発化し、いま日本は大地動乱の時代に入っている。

今の高校生は、阪神・淡路大震災のことを知らない。東日本大震災の記憶が生々しい今の若者にとって、震災＝津波という印象になっている。これが防災教育にとって難しさを生んでいる。防災学習は経験学習であり、地震学者は「地震学は経験科学」などと呼んでいる。地震防災も経験に基づいて構築される。

東日本大震災で震源が連動し巨大地震になり、誘発地震が続いた。これから大地騒乱の時代を迎え、首都直下地震や南海トラフ地震、火山噴火の懸念が高まっている。

特に火山噴火は注意が必要。過去、世界において、マグニチュード９の地震が発生した後に近傍で大規模な火山噴火が起きているのだが、東日本大震災ではまだ起きていない。火山学者はこのことを非常に懸念している。

防災教育は、「過去に学ぶ」「環境（地域）を知る」「今後に備える」の３つで構成される。

地震発生に備える防災学習について、災害発生時どうなるのか、想像してみよう。最初の３分は、児童生徒自身の安全確保が重要。自助の範疇になる。その時何が起こるだろうか。阪神・淡路大震災において、被害者の８割は圧死・窒息死だった。

生徒を守るにはどうしたらいいか。わが身を守るため、机の下に潜る。潜ったら机の脚を対角線でつかむとよい。何もなければ、体を丸くして頭を守る。

津波の危険がある地域なら、できるだけ早く避難をする必要がある。南海トラフ地震は房総にも津波被害が予測されている。

一般的に地震災害で何が起こるか？　建物の倒壊、壁面・天井等のモルタル・タ

イルの落下、家具転倒、落下物の散乱などが起こる。

学校がその時どうなるか。図書室などは大変な惨状になる。本をうず高く積んだ部屋に暮らしていた女性が、わずか震度４の地震で本によって圧死した例もある。たかが本、されど本である。

大部屋は天井の落下の危険がある。プールや、体育館は危険。東日本大震災の時には九段会館の天井が落下して騒ぎになった。教室の窓ガラスの破片、教材棚の内容物の散乱、蛍光灯の落下なども危険。

自宅は家具の転倒、それがなくとも落下物でしばしば大変な惨状になる。

阪神大震災の発生時刻は三連休明けの早朝だった。もし日中の地震だったならば、学校において児童生徒・教職員の死傷者は多数出ただろうし、オフィス・電車・バスの死傷者も出て、災害の様相はまるでかわっていただろう。

スライドに、校長室、保健室、学校でよくある配置と、その危険個所を示している。教室は窓ガラスの飛散が危険。また、入口わきに書棚や薬品棚があると、避難経路を妨害し危険。あるマンションで、トイレ向いのものが落下してトイレに住人が閉じ込められ、三日間トイレタンクの水を飲んで生き延びたという例がある。

災害後最初の３分は自助の時間帯、各人が身の安全を確保しなければならない。無事に揺れを乗り切ったら、周辺はどうなったか気にして、要救援・介護の人がいたら助ける必要が出る。それは共助である。その時、是非若い力を発揮してほしい。

わが町の安全確認を行い、学校周辺の地図を作成することは効果的。結果は学校だけではなく、地域でも共有するといい。ブロック塀やがけなどの他、屋根の上のエアコンや、ベランダの手すりに掛かった植木鉢などもとても危険。

地域・環境を知るための、学校の様々な取り組みを紹介します。静岡県では東海地

震対策として、かつて県立高校数校をモデル校に指定し地震計や水位計を設置し、授業に活かすとともに地域を知る学習を行ったことがある。

防災訓練に工夫をすることも重要。ある学校では防災訓練時に、避難が完了したクラスは教室に黄色いハンカチをぶら下げる習慣をつけ、教員の確認に役立てている。

「釜石の奇跡」で有名になった釜石中学校は、震災前から先進的な避難訓練を行っていた。津波が起こったらその場で身の安全を確保し自分で判断し指示を待たずに安全な場所へ逃げる、動物的な判断力を培う避難訓練を行っている。また、地区ごとに５，６年がリーダーになって低学年を誘導する訓練も行っている。

静岡県の城内中の防災授業として、生徒一人一人避難時の非常持ち出し品を段ボールに詰める訓練を行った。中身は生徒ごとに異なるが、災害時を想定する訓練となる。段ボールはいざという時敷物にもなるという。

ある小学校では、小学生が防災訓練を児童自ら企画・運営する取組があり、これ

も効果的。
　学校は社会貢献を出来る人材を育成し、地域は若い人材をいかに受け入れるか平時に検討する必要がある。

　過去の災害に学ぶことも大切。元禄地震や関東大震災の石碑やモニュメントが千葉県には多数残っている。地元でこれらを教材に勉強してみてほしい。

　避難所としての学校について。学校は避難所に指定される率が非常に高い。阪神淡路大震災の避難所は、場所によっては２０００人以上を収容したところもあった。
　住民が避難所へ行き、避難者を受け入れる。高齢者・乳幼児の受け入れサポートや、名簿作成、掃除など、できることはいくらでもある。若い力を発揮できるよう、平時から検討しておくといい。
　阪神・淡路大震災において、学校はほとんどすべてが避難所になった。早朝だったため、避難者が職員よりも先に学校に避難してきた場合、学校に入れないため、ガラスを割って学校内に先に入り、職員室から保健室まで避難者が入って混乱した例が多くあった。
　避難所は、夜間の照明ひとつとっても、明るいと眠れない人、暗いとトイレに行けない人がいる。音にしても子どもの話し声や情報入手のためのラジオをうるさいと感じる人がいるなど、全員が満足するということはありえず、その都度学校管理者に苦情が寄せられる。
　災害拠点としての学校は、避難所、行政の拠点、物資集積所、ヘリポート、遺体の安置所、様々なものになる可能性がある。遺体安置所は地域の総合病院から話を持ちかけられた学校長が非常に悩んだという話がある。学校には、授業を再開し児童生徒の教育をする使命があり、それと両立してどのような支援が可能か、事前に把握しておく必要がある。準備があれば、児童・生徒に出来ることはたくさんある。
　阪神淡路大震災は、地震の正式名称は兵庫県南部地震という。地震により被害を受けたから、震災と呼ぶ。われわれは事前の備えをかため、地震が起きても被害を最小にとどめ震災に発展させないことが必要だ。これから起こる首都直下地震などを、「地震」にとどめ、「震災」にしないために、学校関係の皆様と生徒児童、住民の皆さまで、安全な県土づくりを推進していただきたい。

防災教育モデル事業事例報告

学校種に応じた地域との組織作り、防災訓練、防災教育の実践の取組が下記のホームページで紹介しています。

ＵＲＬ：http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/anzen/saigai-anzen/index.html
千葉県ホームページ：ホーム　＞　教育・文化・スポーツ　＞　教育・健全育成　＞　学校教育　＞　安全・保健・給食　＞　学校安全　＞　災害安全

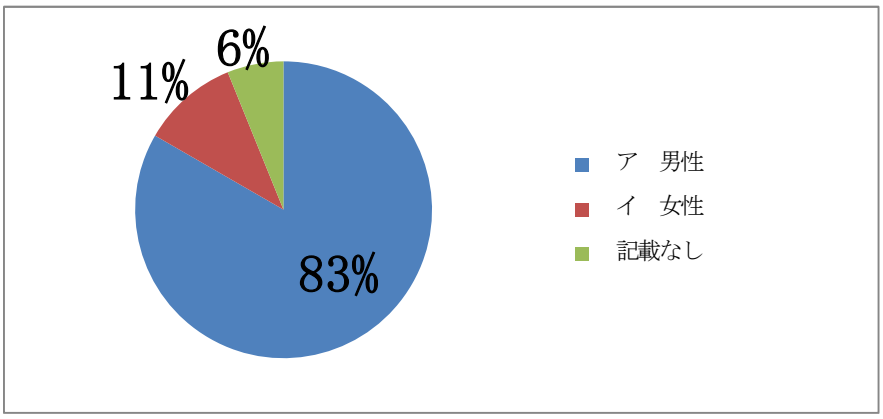
２．アンケート結果

「地域防災力向上セミナー　千葉会場」の参加者に対して、今後の参考とするため、セミナーの内容等について、アンケートを実施しました。

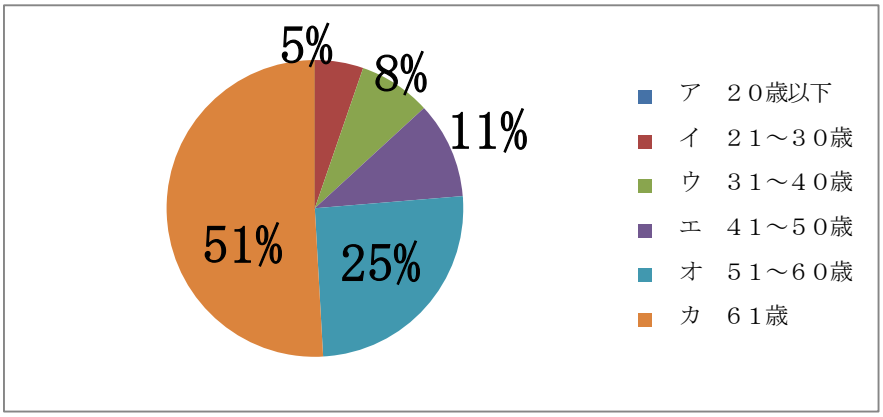
主な結果は以下のとおりです。

（１）参加者について

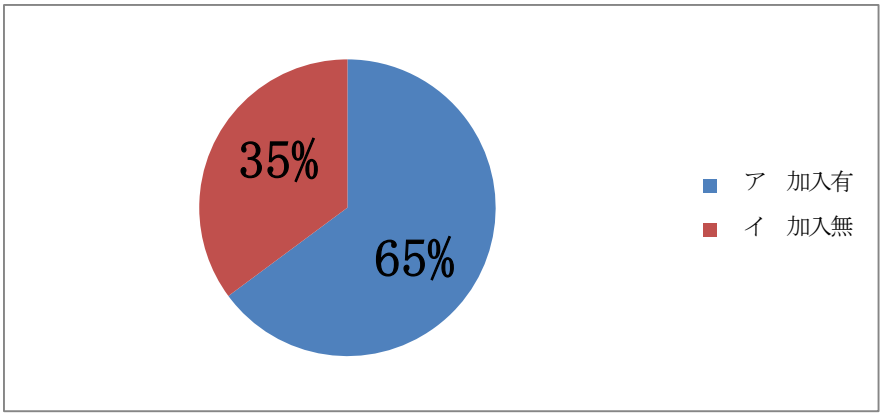
ア　性別



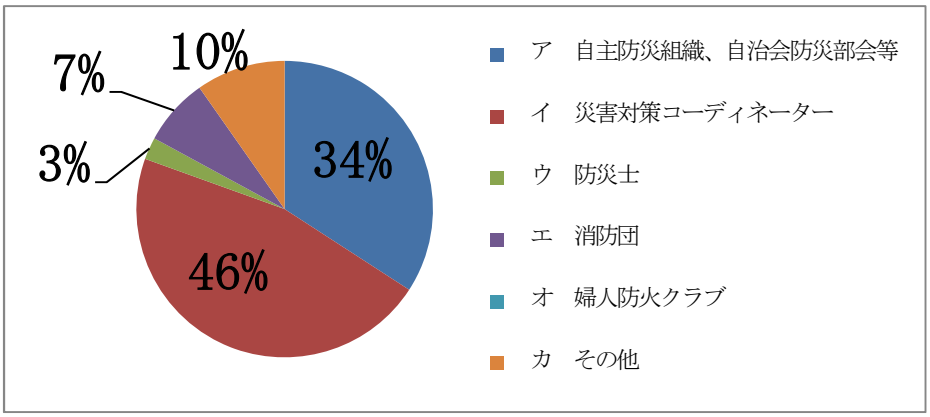
イ　年代



ウ　防災に関する組織への加入状況等

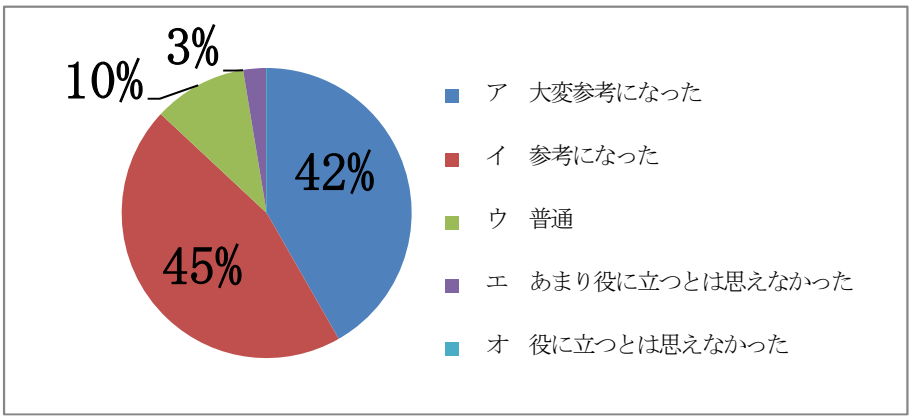


有の場合、加入している組織等（複数選択可）

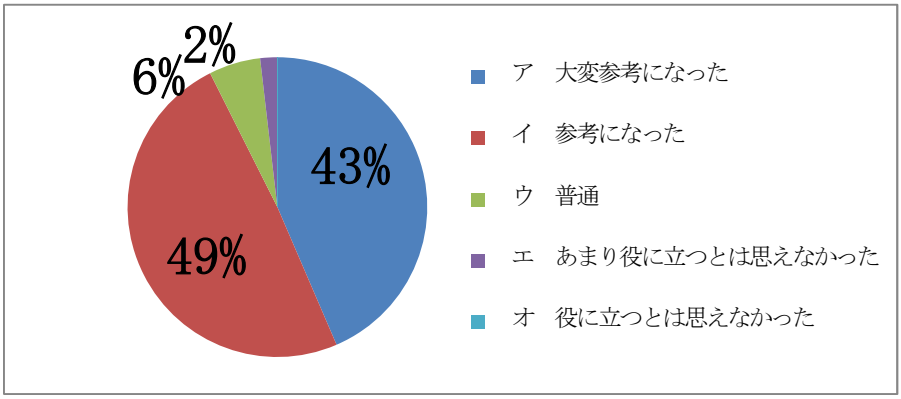
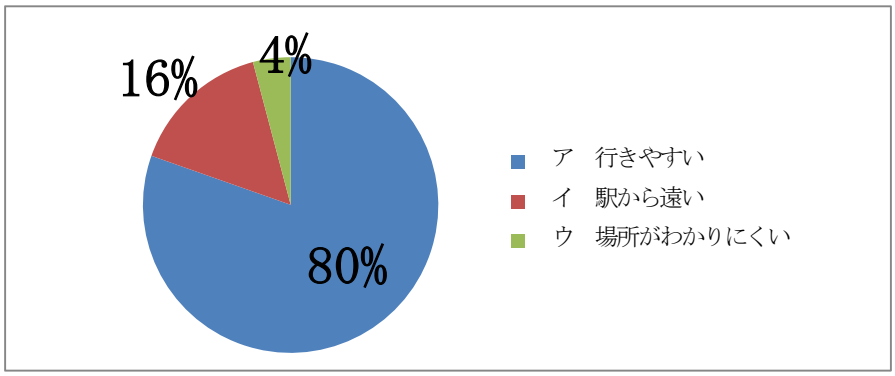


（２）セミナーの内容について

ア　講演



イ　防災教育モデル事業事例報告



イ　会場について